

まるおかじょう

5. 丸岡城

所在地：坂井市丸岡町霞1丁目59番地

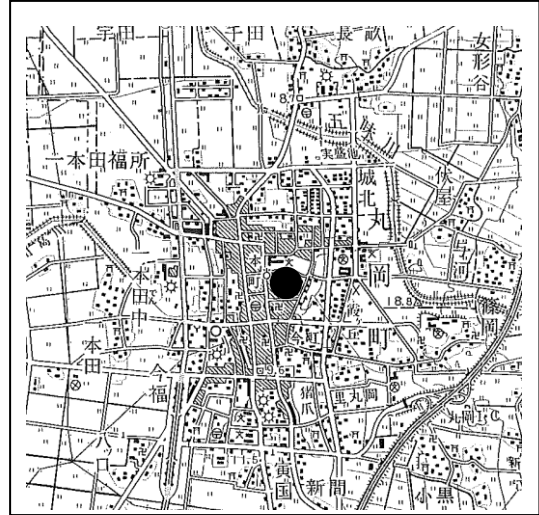
調査原因：内容確認

調査期間：平成30年10月23日～12月4日

調査主体：坂井市教育委員会

調査面積：約50㎡

時代：近世～現代



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 丸岡城跡の本丸にあたる城山部の調査(5か年計画のうちの5年目)で、丸岡城天守の北東広場(通称天守前広場)と天守台の北と南で内容確認調査を実施しました。調査は天守以外の建物の規模や平面形を確認すること、天守台周辺の遺構確認を目的として行いました。

遺構

・天守前トレンチ

トレンチの西側では複数の柱穴を、東側では東に向けて下がる岩盤層の形状が確認できました。岩盤層の上面に黒い旧表土層が傾斜に沿って平行に堆積し、その上に赤色の岩盤と同じ礫を含む層が堆積して上面を平坦にならされている面が2面確認できました。この面で整地されたことがわかります。遺物の出土がないため、年代の特定は困難ですが、石瓦片が混入しないことから、築城当初か、それ以前に現在の城山のかたちを整えた痕跡と考えられます。最も東側では現地表面より約2.8mも深くなっています。

・天守台北トレンチ

天守台北側中央付近に設定。岩盤層の直上まで石瓦や現代の遺物が含まれることから、震災後に堆積したと思われます。天守台の下部に土台は確認できず、地山の上に直接基底石を据えています。震災後の積み直しによる可能性が考えられます。

・天守台南トレンチ

天守台南側中央付近に設定。絵図や古写真では控えの石垣が積まれていたことが分かっていました。結果、天守台の外側に2列の石列を確認しました。天守寄りの石列は震災前まで存在した石垣で、基底部の石列(第1石列)は地山の礫が敷かれた上に積まれており、天守台が積まれた後の時代に積まれたと考えられます。外側の石列は地山を少し掘り窪めて据えていることが確認できました。石のサイズも大きく、据え方もしっかりしています。

石列の外側には礎石建物に伴うと思われる礎石1か所と柱穴2か所が確認できました。外側石列と併せて、丸岡城天守に関連する遺構か、天守よりも前に存在した建物の可能性も考えられます。

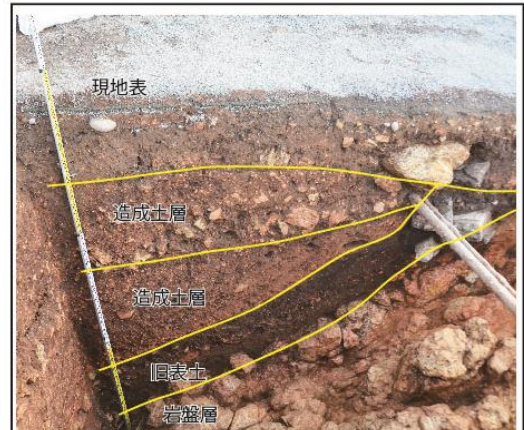
遺物 これまでの調査と同様、大量の石瓦が出土しています。

まとめ 昨年度の調査と併せて、天守台基底部の構造がわかってきましたが、地震後の積み直しで基底部の形状が変わっている部分もあり、慎重な検討が必要です。天守前の広場では一部盛土した層が確認でき、曲輪の整備過程の一端が明らかになってきました。

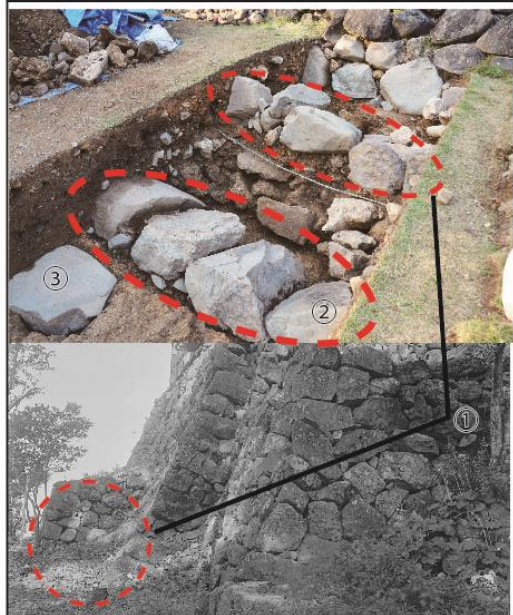
(堤 徹也)



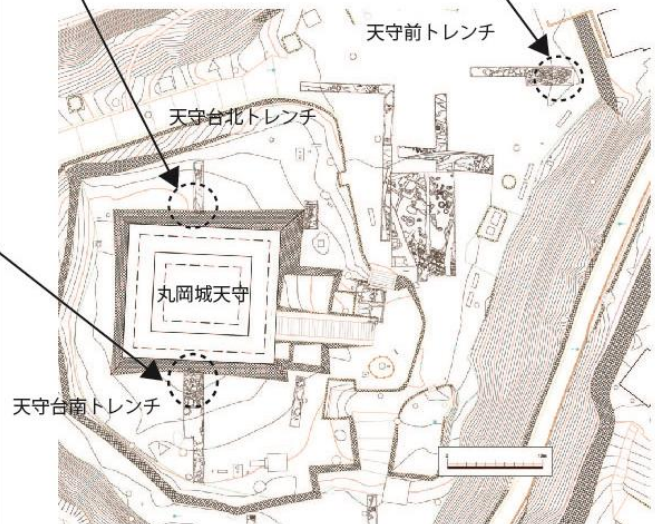
天守台北トレンチ：石垣の基底部は岩盤層に直接据えられていることがわかる。手前は岩盤層が落ち込んでいる。



天守前トレンチ南壁土層：東端の傾斜部。岩盤層の上に、旧表土、その上に平坦に均した造成土層が2面確認できる。



天守台南トレンチ(上)と古写真(下)：古写真に残っている石垣の基底部①と外側の石列②、その外側に礎石と思われる石③。



調査トレンチ配置図